

旅する「未来の学校」に向けて

岩本悠

未来
社会

VUCA（非連続・可変・変動、不確実、複雑、曖昧）
デジタル・グローバル化（ボーダレス・クロスボーダーetc.）

学校
教育

個別最適に対応できる多様な学びの機会
越境可能な開かれた学校教育システム

生徒
実態

興味関心・価値観・志向志望・資質能力・学習スタイル等
多様化・可変的

■ 生まれた環境枠に囚われない越境、地域みらい留学（中学生→高校進学：3年間）

中学生
向け

地域みらい留学

ここから、きっと、私のはじまる。

地域みらい留学
公立高校進学における、もう一つの選択。



■ 地域みらい留学

1173名（2018年）



2093名（2019年）



3456名（2020年）

※合同説明会参加者数

VUCA時代、異質性・多様性を力に変える
非連続な成長機会「越境的な学び」の展開

【参考】「地域みらい留学」 参画校・地域

1.北海道

北海道美幌高等学校
北海道奥尻高等学校
北海道おといねっぶ美術工芸高等学校
北海道礼文高等学校
北海道大空高等学校

2.岩手県

葛巻高等学校
遠野高等学校
遠野緑峰高等学校
伊保内高等学校
住田高等学校
大槌高等学校
大迫高等学校

3.山形県

小国高等学校
遊佐高等学校

4.福島県

川口高等学校
只見高等学校

5.新潟県

阿賀黎明高等学校

6.長野県

白馬高等学校

7.静岡県

川根高等学校

8.三重県

飯南高等学校
昴学園高等学校

9.滋賀県

信楽高等学校

10.兵庫県

村岡高等学校

11.奈良県

五條市立
西吉野農業高等学校

12.和歌山県

串本古座高等学校

13.鳥取県

青谷高等学校
倉吉農業高等学校
日野高等学校

14.島根県

情報科学高等学校
横田高等学校
飯南高等学校
大田高等学校
島根中央高等学校
矢上高等学校
江津高等学校
浜田水産高等学校
吉賀高等学校
津和野高等学校
隠岐高等学校
隠岐島前高等学校
隠岐水産高等学校

15.岡山県

和気閑谷高等学校

16.広島県

加計高等学校
加計高等学校 芸北分校
大崎海星高等学校

17.山口県

周防大島高等学校

18.徳島県

城西高等学校 神山校
海部高等学校

19.愛媛県

弓削高等学校
上浮穴高等学校
内子高等学校 小田分校
長浜高等学校
北宇和高等学校
三崎高等学校
宇和高等学校 三瓶分校
野村高等学校

20.高知県

嶺北高等学校
梶原高等学校
四万十高等学校
大方高等学校

21.佐賀県

有田工業高等学校

22.熊本県

矢部高等学校

23.大分県

久住高原農業高等学校

24.宮崎県

飯野高等学校
高鍋農業高等学校

25.鹿児島県

南大隅高等学校
屋久島高等学校
古仁屋高等学校

26.沖縄県

久米島高等学校
辺土名高等学校



※2021年4月1日時点

2018年
34校



2021年
70校
(26道県)

【参考】越境留学の効果

- ✓ 地域留学生は生きる力を育む「主体性」「多様性」「協働性」に関わる態度に成長実感。
- ✓ 地方留学経験者の4割が留学先の地域に将来も関わりたい（≡定住・関係人口）

地方留学経験者
178人への調査
「伸びた」
「まあまあ伸びた」
の回答合計

1. 他者と協力する力	78.1%	7. 問題意識を持ち、 聞いたり調べたりする力	69.1%
2. ものごとに進んで取り組む力	73.0%	8. 自らのキャリアを描き、 選択していく力	66.8%
3. 基本的な生活習慣	73.0%	9. 学習に関する意欲	65.1%
4. 自分とは異なる意見や 価値を尊重する力	71.4%	10. 教科に関する学力	60.7%
5. 色々な考え方の人と接して 学びたいという意欲	70.2%	11. 社会における問題に 関わりたいという意欲	56.2%
6. うまくいか分からないことにも 意欲的に取り組む力	69.6%	12. 自分の住んでいる地域に 関わりたいという意欲	54.0%

全国の地方留学経験者における
進学した地域への意識（n=178）



※出典：「2018年 地方留学の推進に関する調査研究報告書」日本財団

旅する学校への一歩：地域みらい留学365の概要

1年間、地域の高校に「留学・越境」することで、未来を創る力を伸ばす機会を提供

内容

- ・在籍する高校に籍を残したまま、1年間留学。在籍高校と留学先高校で調整し、読み替えにより単位認定
- ・**違う課程（例：通信→全日）**や**違う学科（例：普通→専門学科）**への越境も可能



本年度（2021年）第1期生23人が誕生。

- 在籍学校：
東京32% / 埼玉9% / 大阪9%...
- 私立：68% / 公立 32%
- 中高一貫 50% / 3年制 50%（通信制14%）
- 留学理由
問題意識・テーマとあっているから：32%
地域に魅力を感じて：18%

第一期生
の属性

受入高校
[12校]



浮き彫りになった課題と今後実証が必要な項目

生徒の多様なニーズに応じた個別最適な学びの機会と、越境可能な学校教育システムの実現に向けて

課題

【単位互換】 教育課程の調整が困難

留学時（2年時）の単位を「学校間連携」で在籍校が認定する仕組みのため、教育課程の合いにくい「普通科⇔専門学科」等の留学が困難

→在籍校と留学先校で調整できない科目を履修できる仕組みが必要

【学びの質】 学習進度・探究深度の差

在籍校と留学先校に教科学習の進度や探究学習の深度・資源、の差が大きく、「浮きこぼれ/落ちこぼれ」状態が生じる

→どこの学校に越境しても、留学期間中に学力を伸ばし、深い探究ができる個別最適な仕組みの構築が必要

◆一つの学校での学びの限界

どの学校にも一長一短・特徴・強みがあり、より個別最適に組み合わせることはできないか・・・

今後の展望

◆通信制課程の活用

- ①全日制と通信制の協働により、単位互換の制限なく学べる状態へ
(在籍校と留学先校で調整困難な科目は通信制課程で履修)
- ②通信制課程の科目、遠隔個別指導等を活用し、進度や学力差を越え、個別最適に学べる状態へ
例：個別の履修計画・学習計画、学習ログの活用等
- ③広域通信制高校への「1年留学」により、複数地域・学校を周る「流学」や、地域・企業等へのインターン、旅などをしながらの学びも可能に

◆学校枠を越えた/学校連携による協働的なカリキュラム構築

- ・どこの学校に留学しても、学校枠を超えた協働的な学びができる教育システムの構築の実証
- 特に学校・地域資源に限定されない、STEAM・探究的な学びのカリキュラム・プログラムの構築
- 例：通信制高校・専門高校、大学、企業等との連携

◆単位認定・互換の在り方も今後検討が必要では・・・